

## 民主主義派と自由主義派の違い

『カデットと民主主義派』から

1906 年以來、われわれは、何百何千回となく、カデットが民主主義者でなく自由主義的＝君主主義的ブルジョアジーであることを、説明してきた。1907 年の春に、政治的な教養をもった人のだれにもよく知られている、ロシア全土のマルクス主義者の公けの決議が、このことを確認し、カデットが自由主義的＝君主主義的ブルジョアジーの党であり、その民主主義が「偽善的」であること、小ブルジョアジーの一部がカデットに追従しているのは、「ひとえに伝統」（ありふれたものに、古いものにひかれる盲目的な習性）「のためであり、自由主義者にすっかり欺瞞されているからである」〔本全集、第 12 巻、134 ページ〕ことを、だれにもきこえるように声明した。

それ以來、この思想は何百何千回となく繰り返され、発展させられてきた。

ところが、カデットは、なにごともしなかったように、マルクス主義者が彼らを民主主義派とみなしているものと「考えなれてきた」かのように断言している！ まことに、聞こうとしないものは、どんな豊よりも始末が悪い。

自由主義者は、進歩と多少とも秩序だった法制度、法秩序と憲法の遵守、若干の政治的自由の保障を必要とするブルジョアジーの利益を代表している点で、保守派（黒百人組）とはちがっている。

しかし、この進歩的ブルジョアジーは、反動よりも、民主主義派と大衆運動のほうをおそれている。ここからして、古いものに譲歩し、それと協定し、古い時代の多くの根本的な基柱を擁護しようとする自由主義者の永遠の志向が生まれる。ところで、すべてこれらは、自由主義派を完全に無力にし、臆病にし、中途半端にし、永久に動揺させるのである。

民主主義派は、広範な住民大衆を代表している。民主主義者は大衆運動をおそれず、これを信頼している。ロシアでは民主主義派とは、トルドヴィキであり、一般に「ナロードニキ」左派である。マルクス主義者は、彼らをブルジョア民主主義派と呼んでいるが、それはけっして「侮辱」するためではなく、どんな土地の割りかえも、国家のどんな民主主義的改革も、まだ資本の支配、ブルジョア体制の支配を取りのぞかないからである。

民主主義的労働者の政策は、明白である。われわれは、選挙の第二段階でだけ、そして民主主義派とともに自由主義者を打ちまかしえないところでだけ、右翼をむこうにまわして自由主義者と協定することを承認するものである。われわれは、ブルジョア民主主義者が自分の民主主義に忠実であるかぎり、彼らのすべてとともにたたかう。

第 18 巻 P235-236 『カデットと民主主義派』

『プラウダ』第 75 号、1912 年 7 月 26 日

『カデットと農業問題』から

『プラウダ』に反対する論戦で、どんなに努力してみても、カデットは民主主義政党か、それとも自由主義的＝君主主義的政党かという問題を、彼らは回避することができなかった。

この問題はきわめて重要である。それは、一般原則的意義をもち、基本的な政治的概念を解明する材料をあたえているだけではない。それだけでなく、反政府派全体の指導者と自任するカデット党の本質の問題は、ロシアの解放運動一般の根本的諸問題の**すべて**とまったく切りはなせないように結びついている。だから選挙カンパニアに意識的な態度をとる者、大衆の政治的啓蒙の事業におけるこのカンパニアの意義を重んずる者はみな、カデット党の本質についてのこの論争に最大の注意をはらわなければならない。

カデットの『レーチ』はいま、この論争をもみ消し、原則的な諸問題を言いがれや、口ぎたない論難（「うそだ」、「歪曲だ」などという）でおおいかくし、鋭い組織上の紛争によってひきおこされた、このうえない個人的腹立ちの時機に解党派がわれわれにたいしてあびせかけたいろいろな悪口雑言をひっぱりだそうと試みている。これはすべて——原則的な論争で自分の弱みを感じている人々のやる、よく知られた陳腐なやり方である。そして、それだからこそ、カデットにたいするわれわれの答は、原則的諸問題をくりかえし説明することでなければならない。

民主主義と自由主義一般との違いは、どのようなものであるか？ブルジョア民主主義者も自由主義者も（自由主義者はすべてブルジョア自由主義者である、しかし、民主主義者はすべてブルジョア民主主義者というわけではない）旧制度、絶対主義、農奴制、上層身分の特権などに反対の気分をもち、政治的自由と立憲的「法治」制度に好意をいだいている。これが、両者の相似点である（これは、両者の類似点——青山）。

両者の相違。民主主義者は住民の多数を代表する。彼（この場合、ブルジョア民主主義者を指している——青山）は住民と小ブルジョアの偏見をともにしており、たとえば、すべての土地の新しい、「平等な」割替えに、農奴制のあらゆる痕跡の根絶を期待するばかりか（このような期待は根拠のあることであろう）、資本主義の基礎の破壊をも期待している（これはまったく根拠のないことである。なぜなら、土地の**どのような**割替えによっても、市場と貨幣の権力をも、資本の権力と全能をも排除することはできないからである）。しかし、民主主義者は大衆の運動を、この運動の力を、その正しさを信じており、この運動をすこしもおそれない。民主主義者は、なんの例外もなく**すべての**中世的特権を根絶することを、かたく主張する。

自由主義者が代表するのは、住民の多数ではなくて、その少数、すなわち、大、中の自由主義的ブルジョアジーである。自由主義者は、反動よりも、大衆運動と徹底した民主主義のほうを**いっそう**おそれる。自由主義者はすべての中世的特権の完全な根絶につとめな**い**ばかりか、若干の、きわめて本質的な特権を直接に**擁護**し、これらの特権がプリシケヴィチらとミリュコフらのあいだで分有されるように、そして完全には除去されないようにしようと、つとめている。

自由主義者は、政治的自由と憲法をつねに制限つきで（二院制度や、その他多くのもののような）擁護する——しかも、どの制限も、農奴主の特権を維持することとなる。この

ように、自由主義者は、農奴主たちと民主主義派とのあいだでたえず動揺する。ここからして、いくらかでも重要なすべての問題での、自由主義派の極端な、ほとんど信じられないほどの無力さが生まれる。

ロシアの民主主義派とは、労働者階級（プロレタリア民主主義派）およびあらゆる色合いのナロードニキとトルドヴィキ（ブルジョア民主主義派）とである。ロシアの自由主義派は、カデット党であり、さらに「進歩派」および第三国会の非ロシア民族グループの大多数である。

第 18 卷 P290~291 『カデットと農業問題』  
『ネフスカヤ・ズヴェズダ』第22号、1912年8月19日

## ポイント

カデットは民主主義政党か、それとも自由主義的＝君主主義的政党かという問題はきわめて重要である。それは、一般原則的意義をもち、基本的な政治的概念を解明する材料をあたえているだけではない。それだけでなく、反政府派全体の指導者と自任するカデット党の本質の問題は、ロシアの解放運動一般の根本的諸問題のすべてとまったく切りはなせないように結びついている。だから選挙カンパニアに意識的な態度をとる者、大衆の政治的啓蒙の事業におけるこのカンパニアの意義を重んずる者はみな、カデット党の本質についてのこの論争に最大の注意をはらわなければならない。

民主主義と自由主義一般との違いは、どのようなものであるか？

自由主義者は、進歩と多少とも秩序だった法制度、法秩序と憲法の遵守、若干の政治的自由の保障を必要とするブルジョアジーの利益を代表している点で、保守派（黒百人組）とはちがっている。しかし、この進歩的ブルジョアジーは、反動よりも、民主主義派と大衆運動のほうをおそれている。ここからして、古いものに譲歩し、それと協定し、古い時代の多くの根本的な支柱を擁護しようとする自由主義者の永遠の志向が生まれる。すべてこれらは、自由主義派を完全に無力にし、臆病にし、中途半端にし、永久に動揺させるのである。

民主主義派は、広範な住民大衆を代表している。民主主義者は大衆運動をおそれず、これを信頼している。

ロシアの民主主義派とは、労働者階級（プロレタリア民主主義派）およびあらゆる色合いのナロードニキとトルドヴィキ（ブルジョア民主主義派）とである。ロシアの自由主義派は、カデット党であり、さらに「進歩派」および第三国会の非ロシア民族グループの大多数である。

労働者階級の党が、常に、このような政党の階級的分析を行い、それを広範な住民大衆に明らかにすることは、いつの時代でも、いつの選挙でも、絶対に必要なことである。